

# 渡辺ゆうじの市政報告

2025年9月議会

連絡先 館山市八幡285-1 TEL; 090-6727-9304

メール y.watanabe.kyousan0715@gmail.com

# 《行政一般質問》

「補聴器は高額なものも・・」 高齢者の切実な気持ちもわかって下さい。

見出し:高齢者の補聴器購入支援制度について

質 問:市民からの制度の要望と調査状況及び、補聴器購入支援制度を実施するための課題について伺います。

答 弁:補聴器購入助成や,補聴器の購入が必要な方の調査についての要望もありますが、調査については、判断が 難しく専門的な検査が必要であるため、現状行っていません。

次に、聴力が衰えてきた高齢者にとって、補聴器は有効な器具であることは認識していますが、財政状況が厳しい中、館山市独自での助成は難しく、国や県からの補助などについての動向を注視していきたいと考えています。

主 張: 加齢性難聴は認知症の発症に影響を与えることが明らかになっています。補聴器を使用することで、認知症の発症リスクを軽減できれば、介護費用なども抑えられるのではないのでしょうか。市は「お金がない」と言うだけではなく、適切な補聴器を使用することのメリットもよく考えるべきであると思います。



### 《請願》

9月議会で請願【日本政府に「核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書」の提出に関する請願】が提出され賛成しました。結果は賛成4反対13で否決されました。

「横須賀米軍基地から約36キロ、館山は瞬時に焦土と化す核戦争、国は核兵器禁止国際条約に参加を!」

一私の主張 (概要) 一

#### ① 《核兵器》

核兵器は、生物兵器・化学兵器と並んで「大量破壊兵器」と称されています。日本国は、生物(細菌)及び毒ガスなどの化学兵器の禁止に関する国際条約を承認し、批准しています。世界は国際条約で生物兵器・化学兵器による絶滅を回避しているのです。日本も核兵器禁止条約の国際条約を承認、批准し、世界から核兵器廃絶へと踏み出すべきです。

#### ② 《核被害》

1945年8月に広島と長崎に投下された二つの原爆では、被爆者は被爆後の放射線による白血病・がん・不妊・胎児障害など、長期間にわたる後遺症にさいなまれます。また、身体的な健康被害に加え、深刻な社会的・精神的被害も受けました。差別や偏見の対象とされることもあり、家族を突然失った喪失感や、生き残ったことへの罪悪感に苦しむ人も少なくありません。

#### ③ 《ノーベル平和賞》

昨年、2024年の日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞しました。日本被団協は 1956年に結成され、以来、核兵器廃絶を目指して活動を続けており、さらに被爆者の権利を守るための活動を続けています。

## ④ 《核の傘》

日本は「核兵器禁止条約の参加・調印・批准はしていません。理由は周囲を核保有国に囲まれていることや、アメリカの核の傘との矛盾があげられます。

核抑止論は、あくまでも「相手の国が、わが国の核兵器を脅威と感じているであろう」と仮定しての議論であり、独裁的・ 権威的な国家にその議論が通用するのかは、はなはだ疑問と言えるのではないでしょうか。

#### ⑤ 《館山の歴史》

さらに歴史を遡ると、旧館山航空基地跡地は、戦後は農地として払い下げられ、県は水産高校、さらにここを拠点に水産大学校を予定し水産業の重要拠点にしようとしていたようですし、館山市は赤山も含めて「館山運動場」を都市計画決定し、野球場や陸上競技場を予定し、実際に競泳用の50m水泳プール(宮城市民プール)を建設しました。館山市政の進む方向は、軍事ではなくスポーツが館山市の歩む道として、その一歩を踏み出した時期でもあったのではないでしょうか。

1964 年 3 月には、館山でも大規模な基地拡張反対運動が展開され、館山市議会は基地拡張反対決議をあげています。反戦非戦の市民の願いは強く、漁民と労働組合を中心とした反対運動が市議会を動かし、基地拡張はストップしました。

そして、1992年には、館山市では「平和都市宣言」を決議します。

館山市の平和都市宣言では、「私たち館山市民は、日本国憲法の掲げる崇高な理想を深く自覚し、武力による紛争を無くすとともに、**核兵器の廃絶**を訴え、世界の人々と共に手を携えて、かけがえのない地球の恒久平和実現のため、ここに館山市を「平和都市」とすることを宣言します。」とされています。

#### ⑥ 《結び》

終わりに、平和都市宣言をした館山市に住む私たちには、平和を希求する気持ちが脈々と流れていると私は信じています。 館山市議会でも、いつかは【日本政府に「核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書」の提出に関する請願】に賛同 をするべきであると考えます。



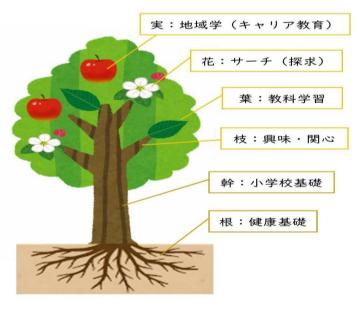
# 《文教民生委員会行政視察》

10月7日(火)~9日(木)に岡山県の美作(みまさか)市と美咲町、香川県の坂出市に行政視察に行ってきました。

## 「ひきこもりや発達障害の子でも生き生きと学べる学校」 ―岡山県美作市―

岡山県美作市では『学びの多様化学校』を題材として、引きこもりや発達障害の中学生が通学している学園を見学してきました。

その学園は自由な学園で、居心地のよさを基本にして地域と連携し、社会性が身につけられるようにするとのことでした。 学園では、子どもの関心のある事柄を題材にして学んでいくスタイルでした。ですから、修学旅行や運動会、文化祭といった決まったカリキュラムはなく、例えば植物を育てたり料理をしたりする活動と教科をつなげて評価をしていくそうです。 私が特に驚いたのが、ある日、学園にヘビの死骸があったそうです。そうしたら子ども達がヘビの死骸に関心を持ち、「先生、ヘビを解剖したい!」と言ったそうです。もちろん、中には目を背けた先生もいましたが、理科の先生がヘビの死骸を解剖して、生物の学習が成立したそうです。のびのびとした学園との印象を強く持ちました。今後の神余小学校への期待と希望が以前にも増して膨らみました。



- ★根の部分は学びの土台。一人一人の健康 な体力作りを考えながら、しっかりと根 を張ります。
- ★幹となるのは小学校の学び。そこから一人一人の興味関心の枝がいろいろな方向に伸び、中学校の学びがたくさんの葉を茂らせます。
- ★一人一人が探求したいテーマを見つけて 学びを広げ、個別の花を咲かせます。
- ★地域での体験学習や実習を採り入れて、 個々の多様な学びが実を結びます。

美作市 HP 引用

#### 「小さくても町長と職員が一致協力する町政」 ―岡山県美咲町―

美咲町では、『子育て支援・少子化対策について 小規模多機能自治の取組における福祉・教育に関する事業について』を 題材とした視察でした。

この町は町長さんがとてもユーモアのある人物で、「なにしろ、人口減少に高齢化、財政難の町です。新庁舎を建てたのは良いけれど、みんなに『プレハブだ。』と言われるのです。」とか、「町の総合計画もコンサルタントには依頼せずに職員が作成しているのです。だから、計画の見直しも自分たちでします。」と言っていました。

今でこそ、美咲町は『賢く縮小するまちづくり』と評価をされ、多数の議会が視察に来るそうですが、現町長の就任当時は、「事業を減らしていかないと町が持たない、事業や施設を減らさなきゃいけない」と学校や公民館も統合したそうです。最初は町民からは大ひんしゅくを買ったそうです。町長は

「母親からも『おまえは何をしたんじゃ?!』と言われました」と言っていました。町長さん曰く、「賢く縮小するコツは、①住民に現状を包み隠さず明らかにすること。②ただ減らすのではなく必要なものは残すこと。」と言っていました。職員曰くに「町長は東京にもひとりで多くの手土産を持って官公庁回りで汗をかく。役場の職員は同行しない。でも、職員もどれだけの苦労をしていることか・・・(笑)」と言っていました。町長さんと役場職員が良い関係なのだなと感じた瞬間でした。

まさに、館山市民や議員が、森市長に対して「そうして欲しい」という姿を、そこに見たような気がしました。

役場庁舎開庁式 美咲町 HP 引用



### 「市役所の部署名はひらがな表記」 一香川県坂出市一

坂出市では『介護予防一体化事業におけるフレイル予防・オーラルフレイル対策』を題材とした視察でした。

市では、平成30年度より、健康のまちづくりに取り組んでいるそうです。その取り組みのひとつとして、健康の『**健**』に幸せの『**幸**』の字を使った『健幸』とは『健やかに幸せに暮らせる』という意味があり、市民が住みたい街、住んでよかったと思える街という願いが込められているそうです。

特に、通い場・まちあい保健室・老人大学といった中で、みんなで集まり、『**健幸**(康)チェックシート』の活用や健幸(康)体操などで、自身の健康状態の把握をできるようにして、その上で栄養士・保健師・作業療法士・言語療法士・医師などの専門職が、転倒予防・服薬・認知症といった、高齢者が関心のある講話などを行い、丁寧に関わっていることは、市民にとっては安心できる「まち」なのではないかと感じました。

また、坂出市役所の部署名は、例えば「かいご課」「けんこう課」といったように、ひらがな表記の部署名が使われており、 私は市のやさしさを感じたような想いがしました。

館山市でも部署名のひらがな表記などの、大きな財源が必要のない制度は取り入れても良いのではないかと思います。

特産品: (金時いも・金時にんじん・金時みかん)



## かわいいキャラクター、ふれあい神余の里マルシェ

先日、ふれあい神余の里マルシェを訪れました。

子ども達が元気に走り回り、おいしそうな食べ物やマグカップ・クリアファイルといったグッズがあり、購入することができました。ぜひまた伺いたいと思います。

